

平成27年度 千葉市教育研究会社会科部会
10月例会 小中合同授業研究 西ブロック

社会科学学習指導案

千葉市教育研究会社会科部会 研究主題

「みえる わかる・・・いかす」

よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う社会科学学習

千葉市立高洲第二中学校 社会科研究主題

思考力・判断力・表現力を育成する社会科授業のあり方

～話し合い活動を通して～



【研究授業】

日 時 平成27年10月20日 (火)
14:00～14:50
場 所 千葉市立高洲第二中学校 3年A組教室
展 開 3年B組
公民的分野 地方の政治と自治
～「ちばレポ (ちば市民協働レポート)」を通して～
授業者 廣岡 大輔

【研究協議】

場 所 千葉市立高洲第二中学校 美術室
時 間 15:15～

千葉市立高洲第二中学校

社会科学習指導案（公民的分野）

授業者 廣岡 大輔

展開学級 3年 B組

展開場所 3年A組教室

I 単元名 地方の政治と自治 ～「ちばレポ（ちば市民協働レポート）」を通して～

II 単元の考察

本単元では、地方の政治と自治について学習する。学習指導要領の公民的分野の内容（3）イ「民主政治と政治参加」では、「地方自治の基本的な考え方について理解させる。その際、地方公共団体の政治の仕組みについて理解させるとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる」とあり、地方自治の発展には住民の自治意識が欠かせず、その自治意識の基礎を育てることの必要性が述べられている。そもそも地方自治とは、自分たちの自治体のことを自分たちで決める「住民自治の原則」と、それを実現するために自治体が独立して自らの意思を決定する「団体自治の原則」を本旨としている。そのため、「住民自治の原則」により、住民が首長と地方議員を直接選挙で選んで自治体の仕事を任せるほか、直接請求権のように個別の問題について住民の思いを自治体に伝える手段があるなど、住民の意思に従って自治体の活動が行われる制度が保障されている。また一方では、「団体自治の原則」により、その地域ならではの独自の取り組みが行われたり、首長が地方自治を進めるうえでリーダーシップを発揮したりする例が見られる。しかしながら、自治体が自由に活動するためには、それ相応の財源が必要であり、地方独自の財源のみで活動することは難しい。国から配分される地方交付税交付金や、地方債に頼らざるを得ないなど、財政的に課題を抱えている自治体も多いのが現状である。そのような自治体では、住民にとって必要なサービスが提供されなくなるなど、住民の生活に大きな影響を及ぼしてしまう恐れもある。このように、地方の政治では、住民の意思が政治に反映されやすい一方、その恩恵はもちろん、弊害までもが住民の身近なところにあることから、住民がその地域の政治に関心を持ち、自治意識を持つということが必要となってくるのである。

しかし、現代の日本社会に目を向けてみると、若者の政治離れが叫ばれているのが現状である。平成24年12月に行われた第46回衆議院議員総選挙では、全体の投票率が60.11%であったのに対し、20歳代の投票率は37.89%と、その深刻さがうかがえる。また、地方の政治に目を移してみると、平成27年に行われた千葉県議会議員選挙では、千葉市の投票率は41.06%（20歳代の投票率は22.89%）であり、地方の政治は国政よりも関心が低いということがわかる。また、より身近な例では、「地域のごみステーションが乱れている」といった町内会レベルで解決すべき問題が市役所へ苦情として寄せられるなど、「住民としての自治意識」とは程遠く、住民が、地域をよくする担い手ではなく、地方公共団体によるサービスの受け手になってしまっているように思われる。

そこで、本単元では、千葉市が市民と行政の協働を意図して始めた取り組みである「ちばレポ（ちば市民協働レポート）」を題材として地方自治を考察し、「地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる」ことを目的に、単元構成していくこととする。

「ちばレポ」とは、熊谷俊人市長が2013年5月の選挙の際に、マニフェスト冒頭に掲げたビジョン「96万人みんなが主役の千葉市づくり」を基にしており、市長の強力なリーダーシップの下で実施

された事業である。2014年9月から始まったこの「ちばレポ」は、スマートフォンを介して市民と行政の協働を創発するコミュニケーションツールとなっている。市民は、「公園のベンチが壊れている」「落書きが放置されている」など、公共施設や道路などの不具合をスマートフォンの「ちばレポアプリ」を通して情報送信する。「ちばレポ」ではこれを「こまったレポート」と呼んでいる。送信された情報は、自動的にデータベースに登録、ウェブサイトで情報共有され、担当課がそれをもとに対応するという仕組みである。また、2015年3月からは「ちばレポサポーター制度」が始まり、行政でなければできない課題と、市民が担える課題を切り分けたうえで、草刈りやペンキ塗りなど、市民ができることは自分たちで対処し、報告できる形へと発展した。行政のお手伝いをした市民は「かいけつレポート」と呼ばれるレポートを送信し、公開される仕組みとなっている。

この「ちばレポ」で住民と自治体とが協働することによって得られるメリットは、大きく分けて2つ考えられる。1つ目は市の負担の軽減である。例えば、市職員が人海戦術で調査するしかなかった街路灯の電球切れを市民からレポートしてもらえれば、それだけで行政コストは大きく削減される。千葉市は、この街路灯の例だけで年間100万円単位のコスト削減を見込んでいる。また、これまでも電話やFAXで報告を受け付け、Excel台帳で情報管理がなされていたが、一連の流れをクラウドベースで管理することにより市役所の業務改善にもつながることになる。2つ目は住民の意識の変化である。地域の課題と対応状況がオープンになることにより、行政の取り組みが可視化され、住民が行政への参画意識をもちやすくなる。また、アプリで写真を撮影するだけという手軽さゆえ、地域に関心の薄い層にも気軽に市政への参加を促せるようになる。

このように、「ちばレポ」を通して地方自治を見ると、住民自治の原則や、首長のリーダーシップ、地方財政が抱える課題、住民参加によるまちづくりなど、さまざまな切り口を考えることができる。

以上を踏まえ、次のように単元を構成する。1時間目では、「ちばレポ」の持つ行政にとっての、また住民にとってのメリットを考察することを通して、地方自治を理解する上でのさまざまな視点を得させる。2時間目では、住民自身が地域の課題を見つけ、解決へ向けて行動するという「ちばレポ」の仕組みを通して、住民自治の原則について考えるとともに、地方の政治の全体像をつかませる。3時間目では、「ちばレポ」導入の契機となった市長のリーダーシップという視点を通して、首長と地方議会の関係やその選出の過程を整理し、地方自治の制度が、政治に住民の意思を反映できるような仕組みになっていることを理解させる。4時間目では、「ちばレポ」が行政コストの削減につながっているという視点から、行政コストの削減が必要な理由を考察することを通して、地方財政が抱える課題を理解させる。5時間目では、「ちばレポ」に挙げられている「こまったレポート」を分析・整理することを通して、身近にある地域の課題を認識し、課題解決への参画、協働の可能性を考えることで、住民としての自治意識を高めさせたい。

なお、本単元の1時間目、「ちばレポ」のメリットを考察する際に、話し合い活動を取り入れる。「ちばレポ」には、前述のとおり行政の側にも、住民の側にもメリットがある。また、どちらの立場においても、経済的な視点や、人々の意識、政治的な意図など、さまざまな視点からメリットが考えられる。この1時間目に出される視点が、すなわち2時間目以降に地方自治を考察する視点につながってくるため、多くの生徒の意見を得ること、また、様々な視点で考えさせること自体が単元全体の深まりにつながってくる。そのため、他者の意見を参考に自分の意見を深めたり、アイデアを出し合うことによって連鎖的に新たな考えを導き出したりすることのできる話し合い活動が有効な手段となる。

Ⅲ 生徒の実態（省略します）

Ⅳ 指導計画

時	学習内容	学習活動
1 (本時)	「わたしたちと地方自治（1）」	・「ちばレポ（ちば市民協働レポート）」のメリットを考える話し合い活動を通して、地方自治を考察する視点を獲得する。
2	「わたしたちと地方自治（2）」 ・地方公共団体 ・地方分権 ・住民自治	・住民自身が地域の課題を見つけ、解決へ向けて行動するという「ちばレポ」の仕組みを通して、住民自治の原則について考え、地方の政治の全体像をつかむ。
3	「地方自治の制度」 ・地方議会 ・首長 ・直接請求権	・「ちばレポ」導入の契機となった市長のリーダーシップという視点を通して、首長と地方議会の関係やその選出の過程を整理し、地方自治の制度が政治に住民の意思を反映できるような仕組みになっていることを理解する。
4	「地方財政」 ・地方財政の制度 ・地方公共団体の財政健全化 ・市町村合併	・「ちばレポ」が行政コストの削減につながっているという視点から、行政コストの削減が必要な理由を考察することを通して、地方財政が抱える課題を理解する。
5	「わたしたちの政治参加」 ・住民の声を生かす ・住民運動の広がり ・わたしたちにできること	・「ちばレポ」に挙げられている「こまったレポート」を分析・整理することを通して、身近にある地域の課題を認識し、課題解決への参画、協働の可能性を考えることで社会事象と自分たちの生活とのつながりを考察する。

Ⅴ 単元の目標

- (1) 千葉市の政治を通して、地方の政治について関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる。
【関心・意欲・態度】
- (2) 地方の政治に対して、自分たちができることを考え、自分の言葉で表現することができる。
【思考・判断・表現】
- (3) さまざまな資料から、地方自治の課題を読み取ることができる。
【技能】
- (4) 地方自治や地方財政のしくみについて理解することができる。
【知識・理解】

Ⅵ 本時の指導

1 題材名 わたしたちと地方自治 ～どうして千葉市は「ちばレポ」を始めたのだろう～

2 本時の目標

- (1) 「ちばレポ」に関心を持ち、意欲的に話し合い活動に参加することができる。
【関心・意欲・態度】
- (2) 市民側、市役所側の2つの立場に立って、さまざまな視点から「ちばレポ」のメリットを考え、自分の言葉で表現することができる。
【思考・判断・表現】

3 本時の展開

時配	学習内容と生徒の活動	留意点 (○) および評価 (◇)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方公共団体はどのような仕事をしているか予想し、教科書で確認する <ul style="list-style-type: none"> ➢ ごみの収集 ➢ 消防・水防 ➢ 上下水道の整備 ➢ 戸籍の管理 など ● まちの「困ったこと」を見つけたらどうすればよいか考える <ul style="list-style-type: none"> ➢ 市役所に電話する ➢ 放っておく ● 教師の説明から、「ちばレポ」という手段があることに気付く <ul style="list-style-type: none"> ・ トップ画面を見る ・ 美浜区の「こまったレポート」を見る 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道路設備が破損した画像を提示し、具体的に考えさせる ○ 大型モニターに「ちばレポ」の画面を映し、操作する
展開 10分	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ちばレポ」の概要をまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートの空欄を埋めながら、「ちばレポ」のしくみを整理する ・ 「ちばレポ」運用開始時のニュース記事を見て考える ● 学習課題を把握する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートを配布する ○ パワーポイント資料を用いて解説する ○ 本格的な運用が始まったのが昨年であること、経費として6600万円が計上されていることに着目させる
<p>どうして千葉市は「ちばレポ」を始めたのだろうか</p>		
15分	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ちばレポ」のメリットについて、市民と市役所の2つの立場で考察する <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人で考え、ワークシートに意見を書く ・ 小集団(生活班:4~5人)で話し合い、フラッシュカードに意見を書き出す <p>《予想される答え》</p> <p>【市民の立場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域の問題を素早く解決してもらえる ➢ 市役所へ要望しやすくなる ➢ 政治に参加している意識が高まる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手元の資料として、実際に挙げられたレポートの例4種類を配布する <ul style="list-style-type: none"> ・ こまったレポート(市民→行政) ・ こまったレポート(市民→行政→市民) ・ かいけつレポート ・ テーマレポート ○ 正解・不正解に限らず、たくさん意見を出すよう助言する ○ 市民側と市役所側2つの立場で、さまざま

10分	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 地域の役に立つことができる 【市役所の立場】 ➤ 調査をしなくても、地域の問題個所を把握できる ➤ 市民の手で問題を解決してもらうことで、行政コストの削減につながる ➤ 市民に政治参加の意識をつけられる ➤ 市民とのつながりをアピールできる <ul style="list-style-type: none"> ● 各班で出た意見を発表する <ul style="list-style-type: none"> ・ フラッシュカードを黒板に貼る ・ 似ている意見をまとめる 	<p>な視点から考えるように指導する 《視点の例》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の生活 ・ 財政 ・ 市役所の仕事 ・ 意識 など <p>○ 意見が出ない班には、出てきた意見を逆の立場から見るとどうなるかを考えさせる</p> <p>◇ 意欲的に話し合いに参加しているか (関心・意欲・態度)</p> <p>◇ 「ちばレポ」のメリットが複数の視点から考えられているか (思考・判断・表現)</p>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ● 千葉市が作成した「ちばレポ」のPR映像を視聴する ● 「ちばレポ」の実施で得られるメリットを整理し、次時以降に地方自治を考察する視点を確認する 	

4 本時の評価

(1) 「ちばレポ」に関心を持ち、意欲的に話し合い活動に参加することができたか。

【関心・意欲・態度】

(2) 市民側、市役所側の2つの立場に立って、さまざまな視点から「ちばレポ」のメリットを考え、自分の言葉で表現することができたか。

【思考・判断・表現】